風と樹の詩（うた）

～いまをみつめて～

社会福祉法人砂町友愛園
砂町友愛園養護部 施設長 河上準一
〒198-0172　東京都青梅市沢井 1-506
☎0428-78-8388　fax0428-78-9104
http://www.sunamachi-yuaien.or.jp/
2018 年　秋号

理事長就任挨拶

理事長　原嶋 曜子

自然豊かなる環境の砂町友愛園は、殊の外美しい秋色に染まっております。皆様には、御健勝にて御活躍の事とお喜び申し上げます。

さて本年5月に、砂町友愛園理事長に就任致しました原嶋曜子でございます。微力でございますが、創設者井上酉之進先生の運営方針でありますキリスト教による隣人愛の精神を大切に致しまして、今後努めてまいりたいと思います。

どうか皆様の御理解御協力を賜りたく宜しくお願い申し上げます。

現在、世の中を取り巻く環境は、養護教育を必要とする児童がたいへん多くなっており、養護施設の果たす役割が一層大きくなっております。そのような中で、当施設の職員一人一人も、子供たちの世話と、生活向上の為に日夜邁進しているのを目の当たりにしているのが現状でございます。

砂町友愛園の子供達が、自分の事を心から心配してくれる大人と出逢い、気にかけてくれたり、大切にされる体験を積み重ねる事により、子供達は将来への夢に向かって大きく羽ばたいていってくれる事を確信致します。

今後も、多くの皆様の御支援、御鞭撻をお願い申し上げて就任の御挨拶とさせて頂きます。

社会福祉法人　砂町友愛園
理事長　　原嶋　曜子

福祉サービス第三者評価 を受審しました

施設が利用者でも事業者でもない第三者（評価機関）と契約を締結し、サービスの内容、事業者の経営や組織マネジメントの力等を評価してもらい、その結果が公表されました。全体として、1．**子ども一人一人の状況や課題を職員間で把握し、共通認識を持って支援するよう努めている**、2．**多様な施設内行事をおこなうと共に外部支援団体によるプログラムに積極的に参加し、子どもの自主性や協調性を育んでいる**こと等が特に良いと思う点として評価されました。また、**子どもを納得させられる力を高めるため、対応力の高い職員の言動・行動を研究するなど、職員間で意見交換する**こと等がさらなる改善が望まれる点として評価されました。

とうきょう福祉ナビゲーション　検索

詳しくは「とうきょう福祉ナビゲーション（http://www.fukunavi.or.jp）」をご覧ください。

＊－－行事報告－－＊

＊－杉の子祭－＊

杉の子祭を今年も良い天気の中、開催する事ができました。杉の子祭は子どもや卒園生、児童の家族、学校の先生、地域の方、児童相談所の方などと、たくさんの人が交流できる場です。また、食べ物やゲームの露店を子ども達は楽しみにしており、早く杉の子祭の日が来て欲しいとワクワクしています。そんな杉の子祭を盛り上げる為、青梅市のマスコットキャラクターのおーちゃんや仮面ライダー、明星大学の方、六平会の方、不二天然氷の方が参加をしてくれました。

＊－キャンプ－＊

夏は楽しい行事がいっぱいです。キャンプでは力ヌーの体験をしたり、カレーを作ったりしました。

＊－そうめん流し－＊

そうめん流しは竹の中を流れていくそうめんを食べました。地域の方や子ども、職員の仲が深まりました。

＊－共同募金－＊

今年も子どもたちと一緒に赤い羽根共同募金の募金活動をしました。今年は早朝2時間の活動で29，101円もの募金が集まり、これらを東京都共同募金会に送りました。この募金は今後福祉サービスや子どもたちの遊び場の整備、ボランティア活動に活かす事ができます。

＊－臨海－＊

海に行ってきました。海では泳いだり生き物を捕まえたりと、たくさん遊びました。ホテルでは美味しいご飯をたくさん食べ、ビンゴや花火を楽しみました。

＊－おーちゃんフェスタ－＊

青梅市のおーちゃんフェスタに参加をさせていただきました。ヨーヨーやフランクフルトやコーヒーを販売しました。子ども達が一生懸命にお手伝いをしてくれたおかげで、多くのお客さんが訪れました。

僕は高校で食品をあつかう勉強をしています。おーちゃんフェスタは食品を販売する事ができ、貴重な体験をする事ができました。また、たくさんのお客さんが訪れてくれました。皆笑顔で自分も嬉しかったです。　高２男児Ｋ

＊－－おしらせ－－＊

＊－TV 朝日農村体験－＊

私はテレビ朝日福祉文化事業団主催『農村ホームステイ体験の旅』に参加しました。私が心に残ったことは、たくさんあります。１ つは農業を体験したことです。ホームステイ先では、ブルーベリー、じゃが芋、トマトなどの収穫、犬のお世話をしました。また、牛農家さんを手伝わせてもらい、仔牛のミルクあげや親牛の餌あげ、牛舎の掃除を手伝ったりしました。特に仔牛はとてもかわいく、連れて帰りたいと思いました。しかし、自分がお世話をした牛が、いつか食べられてしまう肉になると考えると、とても辛い気持ちになりました。ですが、私たち人が食べる大事な食物であり、かわいそうや辛いという気持ちだけでは農家は成り立たないと知りました。

２ つ目は多くの人と関わったことで自分が成長できたことです。私は初対面の人と話すのは苦手で人見知りでした。しかし、同じくこの体験をした、他の施設の子と、仲良くなる内に子ども以外にも大人の人とも、すぐうち解けることができました。

特にホストファミリーの方はとても明るく、話すのがとても楽しかったです。初対面の人と話すのが苦手だった私は人見知りを克服しました。

私が高校生になったらまたホストファミリーに会いに行こうと思います。　　中３女児Ａ

＊－－招待行事－－＊

＊－ディズニーランド－＊

乗れなかった絶叫系のアトラクションに初めてたくさん乗ることができて楽しかったです。
小６男児Ｓ

一般社団法人子供みらい基金様のご厚意でディズニーランドに行ってきました。６年生の最後の良い思い出になりました。

＊－横田基地交流 BBQ－＊

水が入っている風船をバシャーンって投げて遊んだり、顔とかに描いてもらったりするのがたのしかった！またいきたいです！　　小１男児Ｓ

横田基地の方にBBQの招待をしていただきました。ハンバーガーを食べたり、水遊びやフェイスペイントをしたりと楽しむことができました。また、横田基地の方と楽しくコミュニケーションをする事ができました。

＊－かき氷－＊

不二天然氷の方に、杉の子祭やそうめん流しの時においしいかき氷をいただきました。またお店にも招待をしていただきました。

とてもおおきなかき氷で、食べごたえ抜群でした。また食べたいです。ありがとうございました。　中三男児Ｋ

・●o○・施設の取り組み・●o○・

『リスクをマネジメントする』

危機管理の担当職員が置かれるようになって、今年で11年目。初めは危機管理マニュアルの大幅改訂。その後はヒヤリハット事例収集の導入、改良。少しずつ、施設内に危機管理(リスクマネジメント)の考え方を浸透させつつ、仕組みを作り上げてきました。施設におけるリスクとは何かと考えると、やはり一番インパクトの大きい物は自然災害です。地震や台風などの自然災害は、今年も各地で頻発しています。起こらないことが一番良いのですが、ただ何もない事を祈るだけでは、マネジメントにはなりません。当施設は多摩川上流域の山間部に位置する為、地震や台風、長雨による土砂災害には特に警戒しています。昨年度、土砂災害による被害を防ぐ為の行動マニュアルを新たに追加しました。今年の夏は 3 度の台風接近があり、マニュアルに基づき、避難行動を実施しました。いずれも何事もなく、翌日には施設へ戻ることができました。マニュアルを生きた物にするには、運用が不可欠です。実際に動いてみて初めて定着し、また初めてわかる事もあります。そしてまたマニュアルを見直し、実情に即した改良、運用と繰り返されるのです。これがマネジメントです。自然災害の他にも、日常支援、権利擁護、情報管理、ICT 関連など、取り組むべき課題は山積しています。しかしやる事は同じです。終わりの無い地道な作業ですが、入所している子どもたち、働いている職員の安全を守る為に、これからもこれを繰り返していくのです。

危機管理係　米沢慎太

『従事者会運営委員会の活動について』

都内児童養護施設の従事者会は、月 1 回･年 12 回開催され、「児童支援の向上」「施設交流」「緊急課題のアプローチ」の三本柱のテーマで学習会などを開いて理解深めています。また、随時部会や合同委員会の報告や色々な情報交換を行っています。私が所属している調査研究部では、現在の状況を的確に捉えつつ児童養護が向上するための調査研究をしています。従事者会運営員会で得た重要な情報は、職員会議を通して他職員に伝えるという情報伝達の役割も担っています。　従事者会担当職員　澤田恵

『アフターケア』

砂町友愛園養護部ではアフターケアの取り組みに努めています。退所者の状況把握は、退所時の担当職員が中心となり家庭訪問や職場訪問等の面会、電話連絡やメール等を通して行っています。相談内容は、生活や仕事、育児について等様々です。必要に応じて保護者への相談支援も行っています。近年、大学等高等教育機関への進学率の上昇に伴い、奨学金の状況把握や報告書等の管理を含め、学校生活の相談も増えています。アフターケアにあたっては、アフターケア計画書とアフターケア実施状況表を作成し、計画に沿ったアドバイスと退所者の現況を記録し進捗状況を把握しています。退所者が希望するアフターケアの内容を整理しておき、ニーズに応えられるよう配慮しています。また、退所者向け外部支援団体の情報提供を行い、施設以外でも様々な方の支えを感じてもらえるよう努めています。最近では、多摩地区の児童養護施設で『多摩ユースサロン』事業を行い、月 1 回のサロンと年 2 回のイベントを活用しています。

その他にも、施設行事への招待や季刊紙の送付を行い、施設の近況を知ってもらうことで児童には施設が身近な存在であることを感じてもらいます。退所後 3 年間を目安に、誕生日カードを送付、年賀状、成人式のお祝いとして電報も送っています。

入所児童には少しずつ退所後も引き続き支援していく旨を伝えていく事、相談しやすい職員がいれば担当でなくても相談出来る事を理解してもらい退所後の支援に備えています。　自立支援コーディネーター　新井優介

○フレンドホーム

家庭で生活することができない子どもを、夏休み、冬休み、土曜日、日曜日、祝日など、学校がお休みの期間に、ご都合の良い数日間お預かりいただける方を募集しています。おおむね3歳から12歳の入所児が対象です。

○ボランティア

子どもに勉強を教えてくださる方、一緒に遊んでくださる方、行事のお手伝いをしてくださる方を募集しています。